

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	エビデンスに基づいたユニバーサルデザイン型支援プログラムの構築
------	---------------------------------

研究代表者

氏名 伊藤良子	所属 教職大学院	職名 教授
------------	-------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）

本研究課題について以下の二つの研究を実施した。

<研究1>「ユニバーサルデザインの視点を踏まえた小学校算数の授業」

小学校2年生の図形の単元でユニバーサルデザイン型の授業実践を行い、事前事後にアセスメントを実施し、効果を検証することを目的とした。事前のアセスメントとしては、学級の全児童の認知特徴に関するアセスメント、および図形領域における理解度テストを実施した。前者のアセスメントの結果、視覚優位の児童が多いことが明らかになった。この結果をもとにユニバーサルデザインの視点に基づいた支援方法を工夫した。検証授業の結果、図形に関する理解度テストでは、ほぼすべての児童が85%以上の正答率に達し、理解度の向上が認められた。さらにタイプの異なる児童3人を抽出し、授業に対する参加率をビデオ記録から算出した。学習の理解力に困難があり、個別的な配慮を必要とする児童Aは、授業参加率が大幅に高くなり、図形の理解度テストの向上も認められた。個別的な配慮の必要性はそれほど高くはないが、注意の集中時間の短い児童Bは、授業参加率が大幅に高くなり、理解度テストも事前60%から事後90%に上昇した。理解度が高く発展的な学習への配慮が必要な児童Cについては、全般に授業参加率は高いが、発展的な学習を用意しなかった時間では参加率が低下した。

以上からユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業は、すべての児童にとって効果的であることを実証することができた。またこれまでユニバーサルデザイン型の授業研究では注目されてこなかった、理解度の高い発展的な学習が必要な児童に対しても配慮が必要であること示した点で本研究は画期的であると言える。

<研究2>「中学校社会科歴史の授業におけるユニバーサルデザイン化」

授業のユニバーサルデザイン化に関して最近では小学校での実践は非常に活発に行われているが、中学校での実践は極端に少ない。そこで本研究では、中学校2年生の社会科歴史の授業において、ユニバーサルデザインの視点に基づいた支援方法を工夫した。その効果測定として、社会科に対する学習意欲調査を単元の開始前と終了後に実施した。その結果、「歴史が好き」、「歴史の勉強は現在の生活にも役に立つと感じる」、「歴史に関するテレビを見たり、本を読んだりする」の項目において肯定的評価が上昇した。さらに授業では毎回ワークシートを取り入れて実践したが、その際に生徒自身が記述できるノート型余白があるタイプとないタイプとの2つのタイプから生徒が自主的に選択できるようにした。その結果成績上位の生徒はノート型を選択する者が多く、自己選択できる教材の工夫の必要性が示された。

以上2つの研究では、対象校種、学年、教科は異なるが、いずれも授業のユニバーサルデザイン化の効果について、エビデンスを示すことが出来た。またそれぞれ様々な具体的な支援方法を開発した点で、今後この分野に関心のある教師にとって参考になるデータを提供したと言える。今後は校種や教科についても種類を増やし、授業におけるユニバーサルデザイン型支援プログラムの体系化を図ることが課題である。またエビデンスを示す効果検証の方法についても洗練化が求められる。

## 研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

**※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。**

**なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。**

「ユニバーサルデザインの視点を踏まえた小学校算数の授業」、伊藤良子・田島準章、東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要第12集(投稿予定)

「中学校社会科歴史の授業におけるユニバーサルデザイン化」、伊藤良子・杉本 龍、東京学芸大学教職大学院年報第4集(投稿予定)